

これからも、お米と一緒に

広島市立緑井小学校 六年 進元 真由美

お米は、他の食べ物と違い日本人にとってとても特別な食べ物です。なぜなら、赤ぢやんが離乳後に初めて口にする食べ物がおもゆで、次におかゆ、そして、ご飯へと変わっていきます。人が亡くなる前は、ご飯からおかゆ、そして、おもゆへと食生活がまるで赤ぢやんに戻っていくようです。他にも、おめでたい事があると赤飯をたいたり、特別な日にはおすしを食べたりします。さらに、お米は人が亡くなった後もお供え物として使われます。お米は、生きている人だけのものではなく、亡くなった人にも大切なものだと思います。そう考えるようになった理由は、祖父の死がきっかけでした。

祖父はお米が大好きでした。帰省した時に外食に行く店は、いつも回転ずしでした。たまには他の店にも行きたかったけど、祖父はおすしが好きなので、がまんしていました。

おすしを食べに行つた翌日にスーパーに買い物に行くよ、お昼ご飯用にまたおすしを買つていたので、私はびっくりして、
「いいい、どうして昨日もおすしを食べたの
に今日も買うの？」
と聞きました。すると祖父は、
「いいちゃん、酢飯が好きだから、おすしは
毎日でも食べられるよ。それに、今日は巻
きずしだから。」
と言いました。私は、にぎりずしも巻きずし
も同じだと思ふけどなあと思ひました。酢飯
だけでなく、祖父は冷やご飯も好きでした。
冷たい食感がおいしいと言つていたのですが
お弁当でもないのに、味のついていないかた
いご飯は、私には食べられないと思ひました。
そんな祖父が、一昨年の春ごろから調子を
くずし始めました。大好きなご飯を食べる量
が減つていました。夏に帰省するとかりかり
にやせていました。ところが、まだ病院に行
つていませんでした。祖父は、とても病院が

きらいだったので、私が強く言っても行こう
としませんでした。ようやく、去年の一月に
病院に行くよ、もう助からない病気だと分か
りました。ほとんど食べられない祖父は、お
かゆだけは食べていました。一さい一さいゆ
っくりと、おいしそうに味わいながら食べて
いました。去年の夏休みに会った後、祖父の
容態は急激に悪化しました。九月に危篤の知
らせが来て、急いで病院に行きました。話は
できなかつたけど、最後に会えて良かったで
す。その翌日の夜に、祖父は亡くなりました。
今はもう、帰省しても祖父には写真でしか
会えないけど、思い出はたくさんあります。
祖父がいつも座っていたテレビの前の座いす
に、今でも祖父がいるような気がします。祖
父の好きだった白いご飯を仏飯器にきれいな
山に盛ってお供えます。仏前に白いご飯を
お供えするのは日本ならではの儀式です。私
は、祖父を思いながら、お米を大切にでき
た日本の文化をつないでいきたいです。